

# テーマ劇場

## キラキラ！アンダーグラウンドデビュー！

第1章～第7章 日本語訳まとめ

### 収録エピソード

エピソード1 噂へ向かって、一步

エピソード2 地下世界へ、一步

エピソード3 君の隣へ、一步

エピソード4 情熱を込めて、一步

エピソード5 もう一度後ろへ、一步

エピソード6 勇気を出して、一步

エピソード7 もう一步、近くへ

EPIISODE  
1

## 噂へ向かって、一歩

???

あ〜、つまんない。

???

ゲームって一体、何が面白いっていうの？  
48連敗中じゃん！

???

モナティウムなら少しはマシかと思ったけど、  
ここもただの退屈な街だったよ。

???

はあ〜、心置きなくスカッと陶酔できるものが  
ひとつもないんだよね。

???

ん？ ダークネット？ 何これ？

???

イパスータスマの投稿：みんな知ってる？ 地下アイドルって……

???

健全なエルフちゃん15Tのコメント：で？

???

最強キングゴッド存在のコメント：何それ？ ひとりで懐かしんでないで、ちゃんと説明しろよ。

???

シャイングレーブ：地下アイドル？ダンス上手いのか？

???

地下アイドル？初めて聞いたけど……何それ？

???

イバースタスマの投稿：誰も知らないの？地球にいた地下アイドルは、居心地のいい地下ライブホールでキラキラ輝く……

???

ふ～ん？

???

地下でキシキシャ～ってライトを浴びながら踊る、か……  
なんだかカッコよさそうなんだよ！

???

カメラの前で適当にポーズ取ってる連中とは違うみたいだし……

???

イバースタスマのコメント：エーリアスには地下ドルみたいなのないのかな？

???

まだ誰もやってないって？これ、面白そうなんだよ！  
私が一回やってみようかな？

???

エーリアスのアンダーグラウンドを制覇する……  
ニュー・ジェネレーション・アイドルを！



教主

う、うーん……

???

きゃあああー!!

教主

うわっ！びっくりした!!!

教主

はあ……またこれ？ いったい何の音なんだろう？  
どこから聞こえてくるのかも分からない。

???

わあああー!!!!

???

タンタラタンタン?!

???

うおお!!! 行くぞ!!!

教主

悲鳴に近い歓声……

教主

重く響くスピーカーの音まで……

教主

最近、毎晩うるさすぎる。

教主

はあ……明日、適当に何が起きてるのか調べてみよう。  
毎日こんなふうを起こされてたら、疲れて仕方ない。

教主

耳栓どこだっけ？ とりあえず耳だけ塞いで、もう少し寝よう……



ジョアン

ふふん～、らら～♪



ジョアン

エルフたちの都に、これほど興味深い文化が生まれていたとは～



ジョアン

毎晩、この者のライブ映像を見ていると、  
耳元にメロディが残って離れぬな。



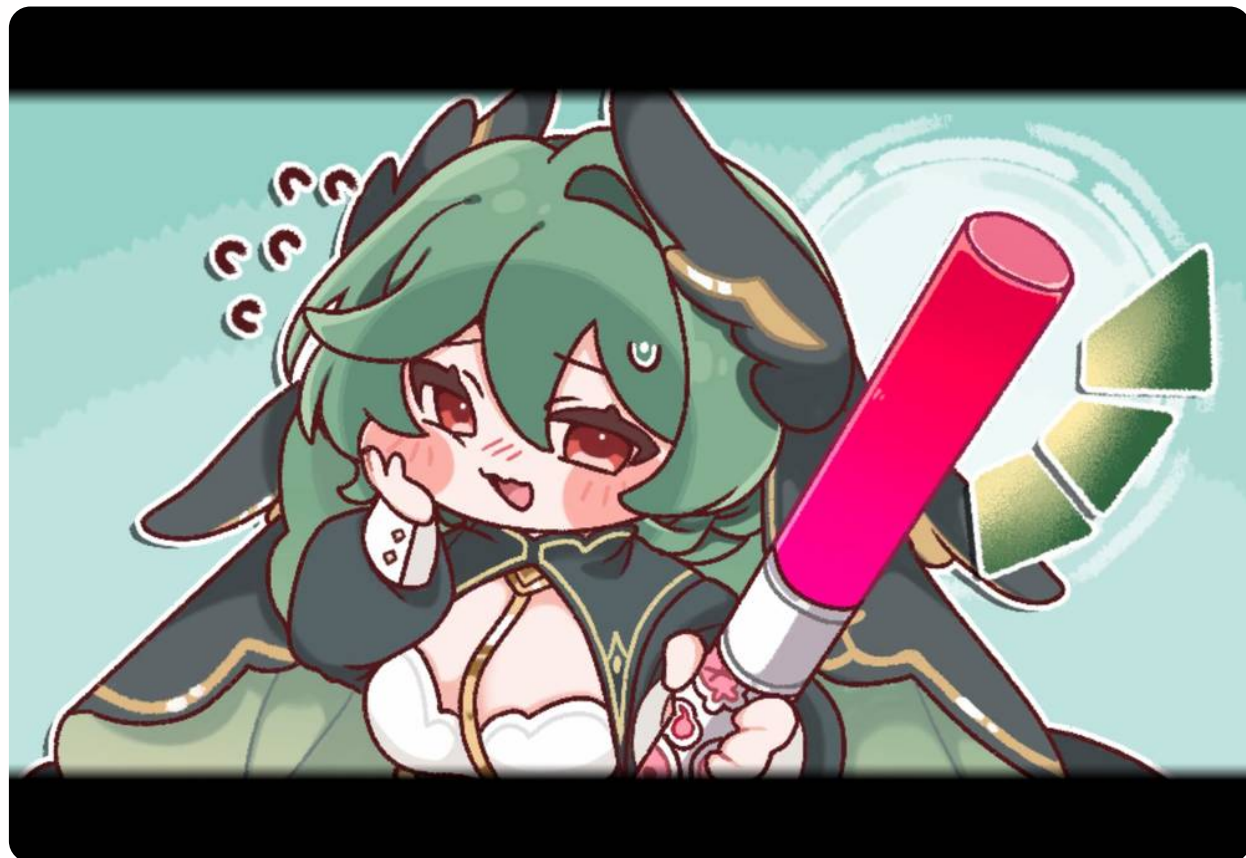
ジョアン

たしか、このように踊っていた気がするが……ふふ……



ジョアン

私もあの者と同じように舞台へ上がれば……  
教主様も喜んでくださるだろうか？



ジョアン

ならば……私も一度……こ、こほん……



ジョアン

た、タンタラ……タンタン？

教主

ジョアン！ここで何してるの？



ジョアン

う、うわあああ!! きょ、教主様!!!



ジョアン

まだまともに練習もできていないのに、  
まさか教主様に見られてはおらぬだろうな……?!

教主

ジョアン、何か怪しいな？

教主

どうしてそんなに驚いてるの？ それより、手に持ってるそれは何？



ジョアン

こ、これは使徒たちが落としたものを拾っただけで……

教主

ちょっと見てもいい？



ジョアン

もちろんです、教主様。

教主

うーん……ぱっと見た感じ、ペンライトみたいだけど……

教主

あれ？ 幽霊たちが使う仮面みたいなステッカーが貼ってある。

教主

ジョアン、これどこで拾ったの？



ジョアン

昨夜……妖精王国の通りを散歩していた時に拾いました。



ジョアン

使徒たちが集団で持ち歩いておりましたが……

教主

集団で？ 夜にペンライトを持って、一体どこへ行ったんだ？

教主

もしかして、これが毎晩の騒音の原因なのかな？



ジョアン

思い返してみれば、皆まるで……何かに取り憑かれたようにも見えました。

教主

やっぱり、嫌な予感がする。幽霊と関係してるみたいだし……

教主

ジョアン！ これ、少しだけ借りてもいい？ 必ず返すから！



ジョアン

か、返していただかなくても構いません！ 教主様の御心のままに。

教主

そう？ ありがとう、ジョアン！ また後で！



ジョアン

ふう……どうやら教主様には見られていなかったようで、何よりだ。



エスピー

タンタラタンタン〜、へへ〜♪

教主

あれ？このメロディ……何か聞き覚えがある。毎晩聞こえてたあの——!!



エスピー

ん、ん？教主、こんなところまで何しに来たの？



エスピー

え、えっ?!手に持ってるそれ……!!

教主

やっぱり！君もこれに見覚えがあるんだね？

教主

エスピー、さっき歌ってた曲は何？どこで聞いたの？



エスピー

え？何、知らないの？



アリス

なに〜？教主、あんたもそういう趣味だったの？

教主

え？アリスもいたんだ？それより、そういう趣味ってどういうこと？



エスピー

何だよ、チャンブレードまで持ってるくせに知らないふりしてるの？

教主

チャンブレード……？このペンライトのこと？



アリス

あれ？本当に知らないの？あの変わり者の幽霊を見に行くところじゃなかったの？



エスピー

そのはずけどな……甘いチェリーレッド色……ひひ、あいつのイメージカラーだから。

教主

変わり者の幽霊？チェリーレッド？なんだかどんどん謎が深まっていくな……

教主

とにかく、このペンライトがその幽霊と関係してるってことだよな？

教主

その幽霊は誰？私の知らないやつ？



アリス

たぶん知らないと思う。あの変わり者、陶酔の幽霊なんだよ。

教主

え？陶酔？私の知らない間に、また厄介そうなのが現れたのか……



アリス

気をつけなよ、教主。あいつが“変わり者の幽霊”って呼ばれるには理由があるんだから。



アリス

あの変わり者に取り憑かれると、みんな正気じゃなくなるんだって。



エスピー

へへ……タンタラタンタン～、へへへ～♪



アリス

うう～、エスピーを見なよ！あいつにすっかり取り憑かれて、完全におかしくなってるでしょ？



エスピー

教主……そのチャンブレード、僕に出来ない？



エスピー

廃盤になって、ずっと手に入らなかったんだ……



アリス

はあ～。でも、教主くらいならあいつにハマったりはしないでしょ。



アリス

私もエスピーと一緒に見に行ったけど、エスピーほどハマらなかったし。



アリス

変な連中にだけちょっと効く、変なやつってことだよ。

教主

うーん……歌手？アイドル？そういうものなのかな……

教主

そいつに会うには、どこへ行けばいい？



アリス

主にモナティアムの地下で活動してるよ？そこに行ってみな。



エスピー

今行ってもいないよ。キシヤたんは夜にしか現れないから……

教主

キシヤ……たん？ そいつの名前がキシヤなの？ 分かった、ありがとう、みんな！

教主

陶酔の幽霊か……気をつけよう。甘く見ていい相手じゃなさそうだ。

???

わあああー!!!!

教主

あっ、聞こえる！ 毎晩私を悩ませていたこの歓声！

教主

この辺りみたいだけど……



ピラ

みんな、なんでこんな遅いんや？



ピラ

時は金なりって知らんのかい?!



ピラ

ちえっ、さっさとゴールド出して入りや!!



ピラ

ふふ〜、これ全部でいくらになるんやろ！ 見てるだけで気分が……

教主

ピラ!! こんなところで一体何してるの?!!



ピラ

うわっ!! 教主!! ど、どうしてここが分かったんや?!

教主

ピラ! なんでこんな裏路地で怪しいことしてるの?!  
心を入れ替えるって言ってたじゃない!



ピラ

怪しくなんかしないで! ウチはただ……

教主

ピラまで関わってるなんて……この下で一体何が起きてるんだ?

教主

どいて、ピラ。私が入って確かめる。



ピラ

きょ、教主! 入るんはええけど……



ピラ

入場料は払ってから入りや!!!! ウチ、クビになってまうやろ!!!

EPISODE  
2

## 地下世界へ、一步

コツ…コツ…

教主

うう、暗い。このチャンブレードだか何だかを振りながら降りていこう。

教主

でも、この建物に地下なんてあったっけ？ 入口が箱の山で隠されてたから全然気づかなかった。

ダダダダッ、ドン！

教主

う、うわああ!!

キシヤ

あ、ごめんごめん。君が大きすぎて、ぶつかっちゃったんだよ！

教主

う、うん？ ごめん。大丈夫？

キシヤ

ところで君……ふふん？ 私のファンなの？

教主

え？ ああ……このペンライトのせいかな？

教主

あ、ということは、もしかして君がキシヤ……

キシヤ

しーっ！あんまり大きな声を出しちゃダメなんだよ。

キシヤ

ほかの連中が集まってくるかもしれないから。

教主

.....

キシヤ

君、なんか面白いね？私が目をつけておくんだよ。

キシヤ

だから、あとで、すっご〜く一生懸命応援するんだよ？

キシヤ

分かった？それでこそ、いいファンなんだよ。

教主

う、うん……

教主

流れで返事しちゃった……？なんだか振り回されてるような……

キシヤ

それから、私たちの会話は秘密なんだよ！  
ほかの連中が嫉妬しちゃうから！

タタタッ——

教主

今の……何だったんだ？ あいつが……本当にキシャなのかな？

教主

それにしても、ここは……普通のライブ会場だな？

教主

前に貼ってある予定表を見ると、けっこう色んなグループが公演してるみたいだけど。

教主

だからかな？ 思ったより観客もすごく多い。

教主

しかもエルフ、魔女、妖精……ぱっと見た感じ、全種族がいるんじゃないか？



ガヴィア

へへ……キ、キシャ……たあん……！

教主

あれ？

教主

あれ？ ガヴィアはどうしてここに？ まさかガヴィアも自分でお金を払って入ったのか……？

トン——

教主

あっ。ごめん……



ローネ(市長)

え、えええっ?! 教主様?!



教主

何だ、ローネ！君もここにいたの？！

教主

しかも、その格好は何？！



ローネ(市長)

きょ、教主様こそ、ここに現れたらダメじゃないですか！

教主

わ、私がここに来るのって、そんなに変なこと？



ローネ(市長)

そういうことじゃなくて、今この状況が最悪すぎるんですよ！

教主

最悪って？ローネ！何てこと言うんだ！



ローネ(市長)

当たり前じゃないですか！一日中働いて、ようやく退勤して、自分だけの癒やしタイムを過ごそうとしてたのに……

ローネ(市長) (本音)

私の秘密の趣味空間で、職場の上司……も同然の教主様に会うなんて！これ以上最悪なことがありますか?!

ローネ(市長) (建前)

教主様の目が気になって、どうやって思いきり楽しめっていうんですか！ふええん……

教主

口、ローネ、落ち着いて！私はただ、ここがどういう場所なのか調べに来ただけだから！



ローネ(市長)

え、え？私に今の言葉を信じろって言うんですか？



ローネ(市長)

教主様、まずは手に持ってるチャンブレードを消してから言うべきじゃないですか？

教主

あ、ああ！これは、その、私のじゃなくて……

ざわざわ……

観客

そこの君たち、声が大きすぎるんじゃない?!



ローネ(市長)

あ、あはは、すみません。私たち、ちょっとうるさかったですよ？静かにします！



ローネ(市長)

教主様、少し声を落としてもらえませんか？私、ブラックリスト入りしたくないんです！

教主

そ、そうだったの？ みんな、ごめん……



ローネ(市長)

それと、教主様は後ろの方に下がったほうがいいと思いますけど？



ローネ(市長)

背が高すぎて、後ろの人たちがステージを見られないんですよ。

教主

あ、そうなんだ？ 分かった……

教主

私はどうして、ここまで入ってきて叱られてるんだろう……



ローネ(市長)

このくらいでよさそうですね。うーん、私はちょっと見えませんが……

教主

ローネ、ところでここではどんな公演をするの？

教主

それに、君はキシャってやつのも知ってるんだよね？



ローネ(市長)

教主様、私を肩車してくれませんか？ そうしたら、ものすごくよく見えそうです！

教主

そ、そこまでしなきゃダメ？ ローネは普通に前に行ってみればいいよ。

教主

いや、それより私が質問したでしょ！ちゃんと答えてよ！

パン——



ローネ(市長)

しっ、しっ！静かにしてください！始まりますよ！



ローネ(市長)

チャンブレードもまた点けてください！チェリーレッド色で！

教主

う、うん、分かった……！

カチッ——



ローネ(市長)

う、うわああ!!! キンシャちゃん!!!

観客

う！あ！う！あ！

キンシャ

タンタラタンタンー？



ローネ(市長)

さあ!! 行くぞ!!!

教主

こ、これだ！毎晩私を悩ませていたメロディ……

教主

これが……コールだったのか？

教主

この音が教団まで聞こえていたはずはないから……誰かが毎晩ライブ映像を見ていたのかな？

教主

流れ星と呼ばれる陶醉の幽霊……キシャはアイドルだったのか？



ローネ(市長)

うーん、アイドルでも合ってはいるんですけど～、“アンダー”アイドルと言うべきですね。略してアンダードールです。

教主

そうなの？ 普通のアイドルとは何か違うの？ 地下で公演するから？



ローネ(市長)

当然違いますよ！ アンダードールはテレビとかには出ないんです。



ローネ(市長)

だからカメラの前で仮面をかぶるような連中とは違って、素直でもあるし……



ローネ(市長)

何より、ファンのこともみんな覚えてくれるんですよ！



ローネ(市長)

なんだかスターの友だちができたみたいな感じ、というか？

教主

なるほど。もっと距離が近い感じなのかな。



ローネ(市長)

教主様、何してるんですか！ 肩組み、肩組み！

教主

え、えっ??!!

キシヤ

さあ、左へ！

ポン、ポン、ポン——



ローネ(市長)

おい！

キシヤ

右へ！

ポン、ポン、ポン——



ローネ(市長)

おい！

観客

わあ～～、パチパチパチ!!!

キシヤ

ふう、ふう……

キシヤ

私、水を一回飲むんだよ！



ローネ(市長)

わあ!!! キシャちゃん!!!!

キシャ

じゃあ、挨拶するね！ こんにちは！ チェリーレッド色を担当しているキシャっていうんだよ！

キシャ

いち、に！ って言ったら、キシャちゃんって呼んでくれるんだよ！

キシャ

いち、に！



ローネ(市長)

キシャちゃん!!! うわああ!!!!

教主

こいつら……私が思っていたより、ずっと熱狂的じゃないか……？

キシャ

君たち、これで精一杯なの？ 応援が、ぜ～んぜん足りないんだよ！



ローネ(市長)

へへ……私はキシャちゃんの、こういう図々しいところが大好きなんです。



ローネ(市長)

本人は振り付けも適当に飛ばすし、カバー曲で口パクまでしてるのに、ファンのほうを叱るこの堂々っぷり！

キシャ

これじゃ、いいファンじゃないんだよ。そうでしょ？

教主

でもこれ、なんだか私に言ってる気がするんだけど……



ローネ(市長)

ええ～、教主様。そんな人だとは思いませんでしたけど、自意識過剰すぎませんか？



ローネ(市長)

まあ、初めて来るとみんなそう思ったりしますけどね。



ローネ(市長)

アンダードルと目が合った気がする、っていう勘違いです～。

教主

か、勘違いなのかな？ いや……あれはさっき私に言った言葉に違いない。

キシヤ

それじゃ、もう一回始めるんだよ！ みんな、準備はいい?!



ローネ(市長)

はい、はい!!! うわあああ!!!!!!

ダダダッ!!!!

教主

ローネ！ 何してるの！ 早く降りて！



ローネ(市長)

あ、これが本来のやり方なんですよ!!!

キシヤ

私は私の思うまま生きるんだ～ 君は私を好きになっちゃうんだ～

キシヤ

私にハマるんだよ！オ～

キシヤ

さあ、ついておいで！私だけを見つめるファンになるんだよ！



ローネ(市長)

う！あ！う！あ！

キシヤ

タンタラタンタンー？



ローネ(市長)

うわあああ!!! 行くぞ!!!!

教主

ロ、ローネ！いつまでそこでそうしてるつもりなの!!!

じたばた、じたばた――



ローネ(市長)

キシヤちゃん!!! ふへへ!!!



教主

もう降りてもいいでしょ、ローネ!!



ローネ(市長)

教主様も早くやってください!!

キシヤ

さあ、みんな一緒に！

教主

うー、う。え！う、あー?!

教主

わ、私は何をしてるんだ？ほかの連中にこの姿を見られでもしたら……！

キシヤ

さあ～、行くぞ!!!!



ローネ(市長)

行くぞ、行くぞ、行くぞ、行くぞ!!!

教主

う、うう!! もう知らない、ひとまず行くしかない!! 行くぞ、行くぞ、行くぞ!!!!

—次のお話—

EPISODE  
3

## 君の隣へ、一步



ローネ(市長)

教主様！教主様？

教主

え、え？



ローネ(市長)

しっかりしてください。公演はもう終わったんですよ！  
早く出なきゃいけないんですってば！

教主

あ、うん……もう？知らないうちに、見入ってたみたいだな……

教主

でも、みんな何であんなに急いで出ていくの？



ローネ(市長)

ほっぺショットを撮るんですよ！ とりあえずついてきてください！

教主

お、おい、ゆっくり行ってよローネ!!

教主

な、何でこんなに多いの？ どうしてみんな帰らずに、この狭い階段で……



ローネ(市長)

公演だけ見てすぐ帰る下級観客がどこにいるんですか？



ローネ(市長)

アンダードルとほっぺを寄せて、写真くらい撮って帰らないと。

教主

あ、そうなの？ それをほっぺショット？ って言うの？



ローネ(市長)

はい！ ほっぺショットを撮りながら会話もできるんです！ だいたい1分くらい？



ローネ(市長)

へへ……今日は一緒にこころポーズで撮ろうって言おうかな？

教主

思ったより、かなり体系的にできてるんだね？

教主

でもローネ、君はどうしてアンダードルを好きになったの？



ローネ(市長)

うーん……元々好きではあったんですけど～、正確にはアメリカ様のせいと言いますか？



ローネ(市長)

アメリカ様に、ダンスの練習をしておけって言われたんですよ。



ローネ(市長)

後でダンスアサシンがダンスバトルを申し込んできた時、また屈辱を味わうわけにはいきませんからね！



ローネ(市長)

最初は勤務時間外の仕事だから見向きもしなかったんですけど、  
どうやって知ったのか、外勤扱いで一日空けてくださったんです。



ローネ(市長)

それで形だけでもやろうとネットで検索してみたら、こういう場所ができてたんですよ。



ローネ(市長)

エーリアスにもアンダードルが生まれるなんて……へへ。

教主

ああ、ローネは元々アンダードルってものを知ってたんだね？



ローネ(市長)

はい！でもキシヤたんは、私が知ってるアンダードルとは何か違う気がして、気になったんです。



ローネ(市長)

ツンツンして見えるのに、ほっぺショットの時間はすごく優しかったりして……  
とんかつみたいな感じと言いますか？



ローネ(市長)

どうせ推すなら、げっそりして薄暗いエレナたんより、  
キラキラして爽やかなキシヤたんの方がいいですし。



ローネ(市長)

あ、そうだ！教主様、ゴールドは多めに持ってきましたよね？

教主

う、うん？何、これ有料だったの？



ローネ(市長)

え？ 当たり前じゃないですか！ アンダードルを、近所のパン屋の妖精でも見るみたいに簡単に見られると思ってるんですか？



ローネ(市長)

あ！ 入っていきます！ 早く来てください、教主様！

教主

ん？ さっき公演してたアンダードルたちが、みんな下りてきてるね？

教主

ファンがその前に並んで、ほっペシヨットを撮るのを待ってるのか……

キシヤ

ガヴィア！ やっほー！ また私に会いに来たの？



ガヴィア

う、うん……！

キシヤ

やっぱり！ ガヴィアは私のこと、だ〜い好きなんだよ！



ガヴィア

う、うん！ へへ……た、たあん……！

キシヤ

うん、うん〜。キシヤたんもガヴィアのこと、大好きなんだよ！



ローネ(市長)

さすがキシヤたん！ガヴィア様を相手に、あんなに上手に会話をリードするなんて！

教主

ところでさ、ローネ……



ローネ(市長)

はい？

教主

キシヤの列って、これで全部？隣の他の子たちは列がすごく長いのに……

教主

前にガヴィアひとり……次にローネ、それから私……

教主

会場は小さいとはいえ、足の踏み場もないくらい満員だったのに……  
キシヤのファンはたった3人だけなの？!



ローネ(市長)

教主様、そこまでピンポイントで言う必要があります？



ローネ(市長)

本来なら、仮面をつけた幽霊様も来てくださって、なんと4人なんですよ！

教主

4人でも、全然多い気はしないけど……



ローネ(市長)

まあ、これも世の理というものじゃないですか？



ローネ(市長)

キシヤたんは、ちょっと運がついてこなかっただけなんですよ～。

教主

それは、たしかにそうかもね……



ローネ(市長)

その代わりに、教主様が今日キシヤたんとはっペショットをたくさん撮ってあげるのはどうです？



ローネ(市長)

へへ……キシヤたんがたくさん稼いで、とんかつを食べられるといいな……

教主

た、たくさんは無理でも、ここまで来たんだし、私もキシヤと話してみるよ。

教主

そもそも、変わり者の幽霊がどんなやつなのか調べに来たんだし。



ピラ

次～、はよ来いや、はよ!!

教主

ん？ピラ！これも君がやってるの？



ピラ

きよ、教主……！まだおったんか?!

教主

話をそらさないで！どういうこと？



ピラ

ウチも正式に面接受けて就職したんや！



ピラ

やっぱりウチはアンダーグラウンド方面でウケるんやろ。

教主

そう？うーん……あ、そうだ！さっき渡せなかった入場券、今渡すよ。



ローネ(市長)

へへ、私の番だ～。



ローネ(市長)

キシヤたん！私、また来ました!! へへ！

キシヤ

ん？ローネ！やっほー！

キシヤ

ローネなら、当然私に会いに来てくれると思ってたんだよ！



ローネ(市長)

もちろんです！キシヤたんを見るために、とんかつもくれない悪徳市長様の下で、歯を食いしばって耐えてるんですから～。

キシヤ

おひひっ！よくやったんだよ！ローネはスカッとしてくれるから、すごく好きなんだよ！



ローネ(市長)

へへ……そうですか？



ビラ

ほな、撮るで！いち、に……とんか～っ！

カシャッ！



ローネ(市長)

うわ～、キシヤたん、すごくよく撮れてる気がします！

教主

あいつら……すごく幸せそうだな。

教主

何というか、お互いの満足度がものすごく高い感じというか？

ピッ、ピッ、ピッ



ビラ

時間切れや。

教主

タイマーまで？ すごくきっちりしてるね。



ピラ

ほっペシヨット1回につき1分やで〜。これ以上やったら、こっちに何も残らへんやろ！



ピラ

次は教主の番や。

キシヤ

どう撮る？ 私のほっぺをつかむ？ それとも普通にほっぺを寄せる？

教主

え？ 私は写真はいいんだけど……ただ話しに来ただけだから。

キシヤ

ちえっ。もったいぶっちゃって。



ピラ

ほな、キシヤのソロほっペシヨットだけ撮るで。

カシャッ！

キシヤ

やっぱり、結局私に会いに来てくれたんだね？

キシヤ

こうなると思ってたんだよ。君も私にすっかりハマっちゃったんだよ！

キシヤ

この子が、あの有名な教主だったんだね？

教主

まあ……好きに思っ

教主

色々聞こうと思ってたのに……何だか言葉がうまく出てこない。どうしたんだろう？

教主

やっぱり陶酔の幽霊だからなのかな？ 惹き込まれるような感覚が……

教主

えっと、うん……その、キシヤ！ 君が変わり者の幽霊だって噂されてるの、知ってる？

キシヤ

まあ、だいたいは何？ でもそれが何？ 何か問題でもあるの？

教主

え？ いや……そういうわけじゃないけど……

キシヤ

幽霊にあれこれ噂がついて回るなんて、今に始まったことじゃないんだよ？

キシヤ

それに、幽霊だからって、必ず人を追い回して困らせる必要はないんだよ。

キシヤ

ほっぺショットにも特に興味なさそうだし……やっぱり私のファンではなさそうだね。

教主

まあ、そうではあるけど……うーん。じゃあ君は、どうしてアンダードルを始めたの？

キシヤ

私はただ、自分がやりたいことをやってるだけなんだよ。

キシヤ

理由なんていらんなんだよ。私が楽しいなら、それでいいから！

教主

そ、そうだね。それは大事なことだよ。

教主

どんどん相手のペースに巻き込まれてる気がする……

なでなで——

キシヤ

なら、それでいいんだよ！私は噂なんて全然気にしてない。

キシヤ

それに、その噂のおかげで、こうして君とも会えたんだよ。そうでしょ？

キシヤ

君、さっき見たら応援も一生懸命してたし？

キシヤ

やっぱり君は、いいファンなんだよ！私、すごく感動したんだよ！

キシヤ

この子も私のガチファンにして、た〜っぷり酔わせてあげなきゃ！

教主

そ、そう？ はは、あはは……

キシヤ

はい、私のほっぺショット持って行って。特別に、ほっぺをむぎゅむぎゅに潰して撮ったんだよ。



キシヤ

だから、次もまた来るんだよ。またたくさん私を応援してくれるんだよ！

キシヤ

今日みたいに、チェリーレッド色だけでチャンブレードを振らなきゃダメだよ？  
そうすれば、私が君を見つけられるんだよ！

キシヤ

分かった？ 私たちの教主は、いいファンでしょ。ね？

教主

こうやって撫でられながら褒められたの、いつ以来だっけ？

教主

キシヤは、そこまで純粋な意図ってわけじゃなさそうだけど、  
こういう扱い……悪くないかも？

教主

まあ、うん。ひとまず分かったよ。

キンヤ

明日もまた会おうね。待ってるんだよ。

EPISODE  
4

## 情熱を込めて、一歩

そうして教主がキシャとツーショットを撮り、帰ろうとしたところ……

ダダダダッ!!!!



アルコ

はあ、はあっ……ついに見つけた！

教主

ん？アルコ！君はまた何しにここへ？



アルコ

あ、教主様！最近、地下でダンスの場が開かれていると聞いて来たんです！



アルコ

これ、全部ダンスバトルの待機列ですよ？

教主

え？これはそういうのじゃなくて……



アルコ

だが、エーリアスの空の下にダンスキャプテンが何人も存在することは許されない！



アルコ

そこの君！君が代表として、私と“アンダーグラウンド・ダンスバトル”をしよう！



アルコ

エレナ市長のように、忘れられない屈辱の瞬間を味わわせてあげる！

キシヤ

どうしてよりによって私なの？ ファンでもないくせに。面倒なやつが転がり込んできたんだよ。



ピラ

アルコ！ キシヤを見に来たんやったら、まずゴールド払ってから話しや！



アルコ

え、え？ ゴールドって？



ピラ

あや？ 払わへんのか?! ほな出ていきや~!!!



アルコ

うわああ！ は、払います！ 払えばいいんでしょう!!

チャリン——



ピラ

最初からそうすりゃええんや！ 1分やで~、1分で勝負つけるんやで~



アルコ

なんて卑怯な手を……とにかくいい！ バトル開始だ、ダンスブレード！

キシヤ

ダンスブレード？ どうやら私のことを言ってるみたいだね？



アルコ

さあ、それじゃ私から……

うわあああ!!!!

ズンズン、ズンズン——



アルコ

ふう、ふっ！ どう？ フェスタ様と野宿巡業をしながら、気合と根性で覚えた私の華麗なステップは！



アルコ

さあ、次は君の番だ!!

ピッ、ピッ、ピッ——



ピラ

時間切れや。



アルコ

え、ええ？ もう終わりなんですか？ まだダンスブレードの番も来てないのに……



ピラ

ほな、もっとゴールド払えばええんやで～



アルコ

う、うう……仕方ない！

チャリン——

キシヤ

ステージの下では踊りたくないんだけど、特別にやってあげるんだよ。

キシヤ

本当は、ただ立って写真を撮って、おしゃべりしてるほうが楽なんだけど。

うわあああ!!!!

ゆるゆる——



アルコ

おい、ダンスブレード！君、適当にやりすぎじゃない？

キシヤ

適当にやろうが、一生懸命やろうが、私の勝手じゃない？



アルコ

これじゃバトルにならないじゃない！いや、それより、情熱が全然なくてイマイチ！

教主

あの、アルコ……そんなに責め立てないで。



アルコ

私たちの勝負なんですから、教主様は下がっててください!!!

ピッ、ピッ、ピッ——



ピラ

時間切れや。



アルコ

いや、これ本当に1分ですか？違う気がするんですけど!!



ピラ

駄々こねんなや。ゴールドないなら出ていきや。

チャリン——



アルコ

うう……ここまで来て諦められない。私みたいに、もっと真剣にやってよ！

ズンズン、ズンズン——

ピッ、ピッ、ピッ——



ピラ

時間切れや。



ピラ

華麗なステップやら何やら、ずっと繰り返してるだけみたいやし、他のこともしてみいや～!!



ピラ

ウチのほうが上手に踊れるっっちゃうねん～～



アルコ

うう！ そのゴレゴレってやつ！ 最後、最後に一回だけ——！

チャリン——

キシヤ

こんなことに、どうしてそんなに必死になるの？

キシヤ

まあ、私はいいけど。ゴールド、やっほ～。

その後もアルコはゴールドを無限に支払い続け、ダンスバトルを続けたが……

竜が回り出すたびに鳴り響くタイマーのせいで、真の勝者を決めるのは難しかった。

そうして結局、アルコは……

すっからかん——



アルコ

ゴ、ゴールドがひとつもない——

キシヤ

情熱だろうが何だろうが、ゴールドがなければ踊れないんだよ。



アルコ

う、うう……卑怯だぞ、ダンスブレード!!!



アルコ

そもそも踊るのは二人なのに、どうして一方的に私だけがゴールドを払うんだ！



アルコ

ダンスブレードめ——モナティアムの経済システムに屈するなんて！



アルコ

君、本当に踊りたいの？好きでやってるんだよね?!

キシヤ

何？当たり前でしょ！やりたくないことをどうしてやるの？



アルコ

ならもっと本気でやらなきゃ！私みたいにスピリットを注ぎ込んでさ！



アルコ

君、歌はほとんど口パクらしいじゃない。せめて踊りくらい真剣に踊るべきじゃないの?!

キシヤ

ぜ、全部口パクってわけじゃないんだからね?! 半分くらいは歌ってるし！



アルコ

私は君を認めない！ダンスブレード、君は全然ワクワクってないんだから!!

キシヤ

勝手にすれば！ワクワクか何だかは、君がたくさんやればいいんだよ。

キシヤ

こいつ、何なの？私に説教しようとしてるの？

教主

アルコは、フェスタとあまり一緒にいないほうがいい気がするな……



ピラ

どないすんねん？ゴールドないんか?!



アルコ

う、うう——ここにはサービス時間みたいなものないの?! カラオケではくれるのに……



アルコ

ノーゴールド精神で押し切れば、今度こそ本当に勝てそうなのに～！

教主

アルコ！今日はもうやめて帰ろう、ね？



アルコ

ふう……仕方ない。待っている、ダンスブレード！ゴールドを山ほど集めて再挑戦してあげる!!!!

キシヤ

何言ってるの？来ても受けてあげないんだから!!

キシヤ

ふん!!!

ヒュン——！

教主

ど、どうしよう？キシヤのやつ……怒ったのかな？

バンッ!!

キシヤ

まったく、みんな私に求めるものが多すぎるんだよ。

キシヤ

ただ適当に公演を楽しんで帰ればいいのに。

キシヤ

こんなにキラキラして可愛い私なら、それで十分じゃない？

ダダダッ!!



ピラ

キ、キシヤ！ 商売うまいことってたのに、なんで出ていくんや?!!



ピラ

あのブドウのやつが教主からゴールド借りて、挑戦続けさせたら一儲けできる……

キシヤ

ゴールドなんて、全然大事じゃないんだよ!!!



ピラ

あや？ ほな、一体何が大事なんや？

キシヤ

私が一番大事なの！

キシヤ

あのブドウのやつ、あまりにもマナーが悪いんだよ！ 気分がすごく悪いんだよ！



ピラ

そうなんか?! 意外やわ。キシヤもどうせ、お金のためにアンダードルやってるんやと思ってたで！

キシヤ

私はピラとは違うんだからね？ ただ私がやりたいからやってるの！

キシヤ

そもそも他の子たちは、ひとつの歌を3人で分けて歌うけど、私はソロなんだよ！

キシヤ

ひとりで5、6曲をフルライブでやるのが、どれだけ大変だと思ってるの！

キシヤ

他の子たちは事務所でトレーニングもしてもらえらしいけど……

キシヤ

私は事務所もないんだよ。だから……だから、そういうことなの！

キシヤ

私だって、やろうと思えばもっと上手にできるんだよ……



ピラ

あや？ なんや、そういうことやったんか？



ピラ

ただみんなにいっぱい可愛がられたって、素直に言うたらええんや～

キシヤ

な、何が！ 違うんだよ！ 私を嫌うやつなんて……私だって好きじゃないんだよ！

キシヤ

まともなやつなら、私を好きになるでしょ！ それなりにファンも何人かいるし？

キシヤ

急に何をわけの分からないこと言ってるの？ 私がそんなはずないでしょ……

コツン!!



ピラ

イライラすんのはやめて、ちょっとは素直になりや～!!!!

キシヤ

ああっ!!! 何で叩くの!! 私のファンたちに全部言いつけるんだから!!



ピラ

言いつけるんやったら言いつけてみい〜!! どうせ何人もおらへんのやろ! ウチでも勝てるで〜!!

キシヤ

わ、私のファンたちをバカにしないでよ!!!!

ぼかぼか〜

教主

うう……すごく寝坊しちゃったな。昨日、熱狂的に応援しすぎたからかな……

教主

でも、実際に体験してみると、キシヤがそこまで危険だとは感じなかった。

教主

人に迷惑をかけるどころか、何だかみんな幸せそうにも見えたし。

教主

ただ……アルコが破産したのを見ると、キシヤにハマりすぎないように注意する必要があるようだ。

教主

何にせよ、あいつは陶醉の幽霊だから。

教主

それにしても……昨日アルコのせいで機嫌が悪そうだったけど、今日も公演するのかな？

キシヤ

タンタラタンタン〜？



ガヴィア

う! あ! う! あ!!!!!!!



ピラ

あの土の精霊、一日たりとも来えへん日がないんや。



ピラ

精霊は住みか守るっちゃうん、全部ウソっぱちちゃうんか?!



ピラ

キシヤのファンは何人もおらへんけど、一番熱狂的なのは確かみたいやな。

ゴゴゴゴ——!!!!



ピラ

ちょっと待て、なんか地面揺れてる気がするんやけど？ 気のせいかな？

ミシッ——



ピラ

気のせいやない！ ホンマに会場が揺れてるんや!!!



ピラ

そこの土の精霊!! 落ち着きや!! このままやと会場が崩れてまうやろ~!!!



ガヴィア

う、うう……

キシヤ

これで精一杯なの？ さあ、もっと大きく！ 行ってみるんだよ!!!!

うわあああ!!!!

キシヤ

いいね！ 今日、私たちがステージを完全にぶっ壊すんだよ!!!



ガヴィア

たん……たら、たん！ たん!!!!!!



ピラ

やめえ、やめえ！ 口閉じとけや!!!

ゴゴゴゴ——!!!!

キシヤ

きゃあああっ!!!!



ピラ

み、みんな早よ出えや!!!



ガヴィア

う、うあ……!!!

EPISODE  
5

## もう一度後ろへ、一步

そうして、会場の地震事件は瞬く間にエーリアス全域へ広まった。

『モナティウム地下公演場、謎の地震により完全崩壊。このまま閉鎖か？』

『行き場を失った観客たち。幸い、負傷者はほとんどなし。』

キシヤ

ちえっ。行き場を失ったのは観客じゃなくて、私なんだよ！

キシヤ

公演場が再建されるまで、いつまで待ってっていうの！

キシヤ

私のファンは……まあ、私ひとりいなくても、いつも通り楽しくやってるんだろうね。

キシヤ

私だって趣味で公演してるんだから、あいつらこそ何のダメージもないはずなんだよ。

キシヤ

ローネ、ガヴィア、エスピー……みんな帰る場所があるんだよ。

キシヤ

私はこれから何をすればいいの？ 私、アンダードルしか楽しいことがないのに……

キシヤ

ぜんぶ……ぜんぶいらないんだよ!! 私はただ……うう……

へたりっ！

キシヤ

な、何をすればいいの……？ 将来の計画なんて、立てたこともないんだよ。

キシヤ

性格の悪い妖精のやつに、うっかりステージ衣装をひとつ注文しちゃったのに……

キシヤ

期日までにゴールドを払えなかったら、歯をカチカチ鳴らしながらめちゃくちゃ怒るはずなんだよ！

キシヤ

このままだと、私もあのブドウの精霊みたいにノーゴールド精神になっちゃうかも……

キシヤ

違う、違う！ どう考えても、それはダメなんだよ！

キシヤ

考えてみたら、私どうしてこんなことで悩んでるの？

キシヤ

全然、私らしくないんだよ！

キシヤ

楽しくなりたくて始めたアンダードルなのに、今は考えごとで頭がいっぱいなんだよ。

キシヤ

もしかしたら、ピラの言う通り、私は本当はみんなに……



ピラ

ただみんなにいっぱい可愛がられたいって、素直に言うたらええんや～



ピラ

イライラすんのはやめて、ちょっとは素直になりや〜!!!!

キシヤ

うわあ！違う！知らない！分かんない！

キシヤ

ふう……全然うれしくない。

とぼ、とぼ――

モナティウム大通り

キシヤ

はあ……

教主

ん？ あいつ……キシヤじゃないか？ 何だか機嫌が悪そうだけど……公演場が崩れたせいかな？ 話してみよう。

教主

キシヤ！ ここで何してるの？

キシヤ

きよ、教主？

キョロ、キョロ――

キシヤ

誰かに見られちゃダメなんだよ！ ほっペシヨットの時間でもないのに、そんなふうにはしかけたら……

教主

あ、そうなの？ ゴールドがないと、会話もできないの？

キシヤ

こっちの世界はそういうものなんだよ。ファンと私的に会うのはダメ、ダメなの！

教主

そこまで規制する必要ある？

キシヤ

本来、アンダードールなら神秘主義をひとさじ加えたほうがウケるんだよ。

キシヤ

ファンたちも、ステージの上でキラキラ輝く私が好きなんだし。

キシヤ

道端で会ったら、一緒にヘジャングクでもすすってそんなアンダードールなんて、何が気になるの？

キシヤ

ほっペショットの時間に制限をつけてるのも、ほどよく名残惜しいほうがまた来るからなんだよ。

キシヤ

まあ、お金が大事ってわけじゃないけど……公演の入場料だけじゃ衣装代が足りないんだよ。

キシヤ

ほっペショットの収益くらいはないと、可愛いカチューシャも買えないし、いざとなったら可愛いしっぽもひとつ……

教主

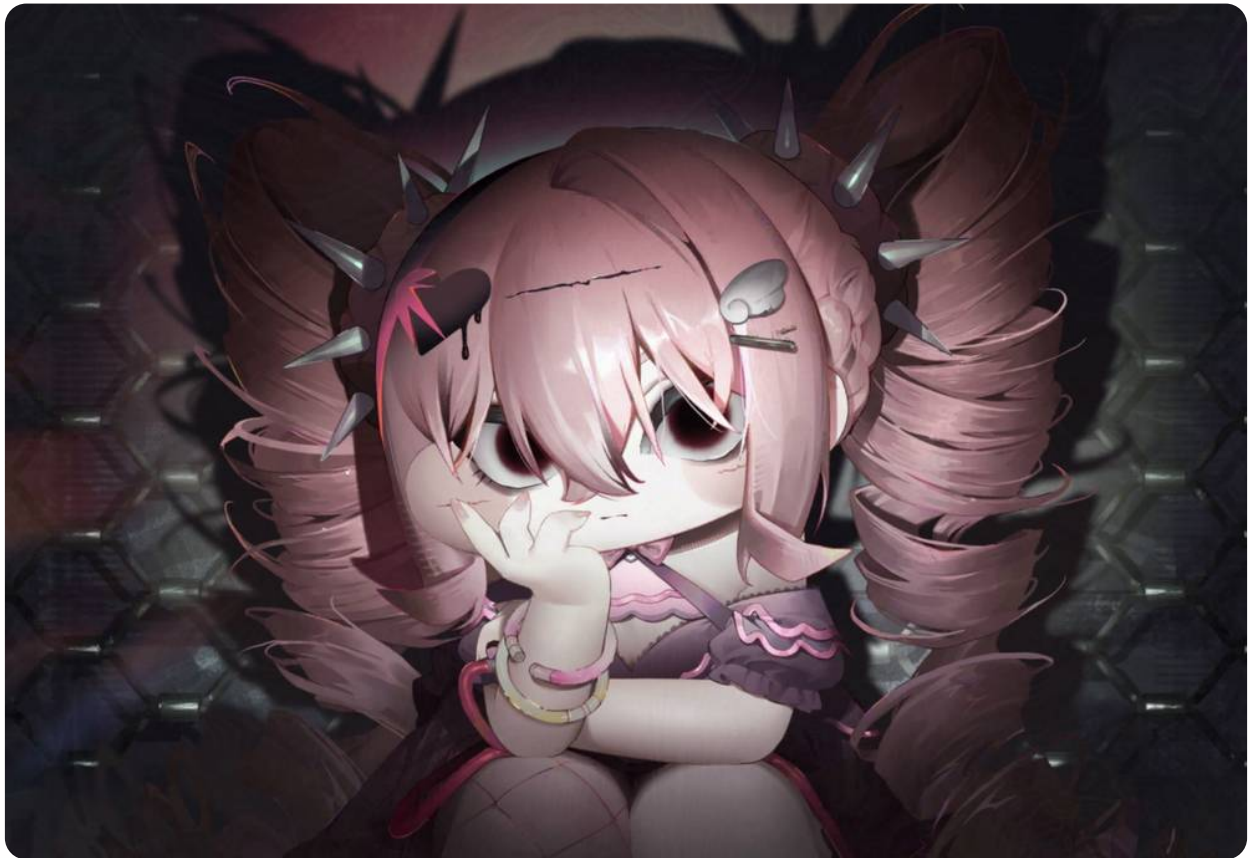
ゆ、有名人にしては、言うことが現実的すぎない？

キシヤ

と、とにかく！ 私が毎日毎日違う姿を見せてこそ、ファンも喜ぶってことなんだよ！

教主

そ、そういうものなの？



キシヤ

アンダードルとファンは、そういう関係なんだよ。

キシヤ

小さくて頼りない柵ひとつを越えられない……

キシヤ

いや、越えずに見つめるだけでこそ、続けられる関係なんだよ。

キシヤ

私はただ、このステージの上で一生懸命公演すればいいんだよ。

キシヤ

ファンはこの下で、楽しく応援すればいいだけ。

キシヤ

そうやって、それぞれの場所で線を守っていればいいんだよ。

キシヤ

でも……

キシヤ

こんなにつらい時は、誰にも話せない。

キシヤ

私はいつもひとりなんだよ。

キシヤ

ステージの上では可愛く輝いてるけど、公演場の外に出たら私は……

キシヤ

私はただの……

教主

キシヤ……

キシヤ

だから、ほっぺショットを撮る時は私もすごくうれしいんだよ。

キシヤ

時間は限られてるし、ゴールドもたくさん払わなきゃいけないけど……

キシヤ

私のファンたちと、近くでいっぱいおしゃべりできるでしょ？

キシヤ

今日のお昼に何を食べたのか、昨日はどんなことがあったのか。

キシヤ

そんな何でもなし話を、たくさんできるんだよ！

キシヤ

距離を置かってこと……私だって、好きでやってるわけじゃない。

キシヤ

今はほっぺショットを撮りに来るファンがたった3人……まあ、教主まで入れたら4人だけど……

キシヤ

みんな、まだ私の魅力を知らないだけなんだよ！ すぐ増えるんだよ！

キシヤ

いや？ 違う。実は多い必要なんてない。私は今のあいつらだけで十分なんだよ。

キシヤ

でも、ファンがまったくいなかったら……私がわざわざ公演する理由もない。

キシヤ

ファンもいないのに、ひとりで公演するアンダードルなんていないんだよ！

キシヤ

でも、もう公演場がなくなっちゃったんだよ……

教主

やっぱり、それで落ち込んでたんだね？ 少しかわいそうだな。何か手伝ってあげたいけど……

教主

そ、その、公演する場所が必要なら、私が用意しようか？

キシヤ

ん？ どこか知ってる公演場でもあるの？

教主

公演場じゃないけど、教団にいい場所があるんだ。行ってみる？

キシヤ

うーん、行ってみるんだよ。ずっと道端に立って話してるよりはマシだし。

教主

どう？ 綺麗でしょ？ ここで適当に曲を流してやればよさそうだけど。

世界樹教団 花壇

キシヤ

……………

教主

あ、観客は心配しないで。教団にもキシヤのファンがいるみたいだったから。

教主

少し足りないと思ったら、私をもっと呼ぶよ。ジョアンやネルにも言って……

キシヤ

やめて、もう言わないで!!

キシヤ

ここ、雰囲気完全に町内会のお祭りじゃない!!

キシヤ

いい公演場かと思ってついてきたのに、全然ダメなんだよ！

キシヤ

こんな明るい場所じゃ、チャンブレードの光も埋もれちゃうでしょ！

キシヤ

うう……教主は一体、私の公演を何だと思ってたの？

教主

そ、そう？ 私は何だか開放的で、むしろいいと思ったんだけど……

キシヤ

感性ゼロだよ、教主！ アンダードルの勉強をもっとして！

教主

ごめん……助けたかったんだけど、方向性を間違えたみたいだね。

キシヤ

私は地下公演場じゃなきゃやらないんだよ！

教主

そ、そうなの？ 君なりに公演場の選定基準があるのかな？

キシヤ

ほどよく狭くて薄暗いけど、照明はパッとまぶしく輝く地下公演場……

キシヤ

その照明の前を、ふわふわ漂うホコリ……

キシヤ

それを目で追っていくと、ファンたちがめいっぱい笑ってるんだよ。

キシヤ

これが地下公演場の感動なんだよ！豪華に飾ったセットみたいなのは嫌い。

キシヤ

作り物の世界で作り物の笑顔を浮かべるのは、興味ないんだよ。

教主

じゃあキシヤ、君がアンダードルをしたい理由は何？

教主

アルコが言うみたいに、ダンスや歌にもものすごい情熱があるようには見えないし……

教主

ファンを集めたり、有名になろうとして特別な努力をしてるわけでもないし。

教主

そもそも君は幽霊だから、お金の心配をしなくても普通に暮らせるでしょ。

キシヤ

私は何か欲しくてアンダードルをやってるんじゃない。

キシヤ

ダンスブレードだの何だのって呼び名にも興味ないんだよ。

キシヤ

事務所から手厚く支援されてる他のアンダードルたちより、有名になりたいわけでもないし……

キシヤ

ほっペショットで稼いだゴールドは、ただ衣装や小物代に使ってるだけなんだよ。

キシヤ

私はただ、自分がやりたいからやってるんだよ。他に理由はない。

キシヤ

ステージの上で照明を浴びると、すごくうれしいんだよ！

キシヤ

みんなでわいわい集まって応援するのも楽しいしね。

教主

キシヤは、公演場だけじゃない。ファンたちのことも恋しがってるんだ。

キシヤ

それだけなんだよ。私は本当にそれだけなのに……

キシヤ

教主、教主も私が何か足りないと思う？

キシヤ

こんな悩み、一度もしたことなかったんだよ。

キシヤ

私がやりたい分だけ、ほどほどに楽しみたいだけなのに、みんなもっと頑張れって言う。

キシヤ

もう、私にとって何が一番大事だったのか分からなくなっちゃったんだよ。

キシヤ

そもそも私は、未来なんて考えないんだよ。

キシヤ

今すぐ楽しければいいから、他のことは考えたくない。

キシヤ

でも、また公演場がなくなったせいで、今の私にできることは何ひとつないんだよ。

教主

うーん……

教主

キシヤは何を言いたいんだろう？ 幽霊だからかな？ いまいち分からないけど……

教主

本人も混乱してるからかな？ キシヤが望んでるものを見つけさせるには、どうすればいいんだろう？

教主

キシヤ。すぐには難しいだろうけど、他に公演場がないか、もっと探してみるよ。

キシヤ

いいよ、もう。ファンに宿題を出したくないんだよ。

キシヤ

どうせ待っていれば、公演場はまた建つでしょ。

キシヤ

……ここは明るすぎて憂鬱。私、帰る。

タタタッ——

教主

ちょ、ちょっと待って！ キシヤ！

教主

どこか地下に、ちょうどいい公演場はないかな？

教主

うーん……それより、キシヤ自身にも何か気づいてほしいんだけど。

——次のお話——

EPISODE  
6

## 勇気を出して、一歩

キシヤが教団を訪れてから、数日後——  
モナティウム大通り

キシヤ

どこかに面白いことないかな？ すごく退屈なんだよ。

キシヤ

他の子たちはファンミーティングをしたり、イベントに出たりしてるのに……

キシヤ

私は一体、何をどうすればいいのか分からないから……

キシヤ

うーん……私も事務所に入るべきなのかな？

キシヤ

はあ～、私のファンたちはどこで何してるんだろう？ なんだか気になるんだよ。  
ぞろぞろ——

キシヤ

ん？ あれは……エスピー？



エスピー

ひひ……本当にキシヤさんにはバレてないんだよね？



ローネ(市長)

もちろんですよ～。私、教主様から聞きましたけど、完全にお休み中みたいでしたし。



エスピー

よかった。バレたら困るから気をつけよう。



ガヴィア

う、うん！ うん！

キシヤ

ローネに、ガヴィアまで……！ 私抜きで、みんな何してるの？



ローネ(市長)

教主様は今日も先に着いてるんでしょうかね～？



ガヴィア

ううん……！ あ、朝……から……！



エスピー

えっ？ 本当？ 教主が一番熱心なんじゃない？

キシヤ

教主まで……?! まさか、他の子のほうが好きになったの?!



キシヤ

.....

キシヤ

もう、ひとりで悩むのはうんざりなんだよ。  
ダダダッ——

キシヤ

はあっ……はあっ……ふう、ローネ！



ローネ(市長)

え、え?! キシヤたん、どうしてここにいるんですか??

キシヤ

みんな一体どこへ行くの?! 他のアンダードルでも見に行くの?!



エスピー

キシヤたん！ そうじゃなくて、その、つまり私たちは……

キシヤ

いいよ、言い訳なんていらんだよ！私、全部聞いたんだから！

キシヤ

教主までハマらせるなんて……！どんなやつなのか、私が直接見て判断する！一緒に行くんだよ！



エスピー

こ、これはまずいんだけど……



ガヴィア

うあ……ううん……

キシヤ

早く行こうよ！ね？



ローネ(市長)

うーん……まだ準……準備ができてないんですけど……仕方ないですかね？



ローネ(市長)

こうなったら、そのままついてきてもらうほうがよさそうですね。  
とぼ、とぼ――

キシヤ

ほ、本当にここで合ってるの？何も見えないんだけど……



ローネ(市長)

心配しないで、そのまますすぐ進めば大丈夫ですよ～。

キシヤ

精霊山にもアンダードルの公演場があったんだ？ どうして知らなかったんだろう？

キシヤ

う、ん？ これは……



キシヤ

こ、これ何……？



エスピー

私たちがキシヤたんのためだけに作ったステージだよ、ひひ……



ガヴィア

う、うん……！ うん！



ガヴィア

少し……ふ、不足……だけど……



ローネ(市長)

うわ〜、実はまだ未完成なので、もう少し後でお見せしたかったんですけど……



ローネ(市長)

でも、勝手に誤解して下さったおかげで、ほどよくサプライズ感も出て悪くないかも？



ローネ(市長)

それに、ここなら崩れる心配もありません！



ローネ(市長)

ガヴィア様が毎日ごろごろしているご自分の住みかですし、これくらい管理できないはずないですよ？



ガヴィア

ま、まあ……うん、あ。

キシヤ

本当なの？ 他のアンダードルを隠してるわけじゃないの?!



エスピー

えっ？ 私たちがキシヤたん以外のアンダードルを好きになるわけないでしょ。



ガヴィア

ううん……



ローネ(市長)

ここはキシヤたんだけが使えるステージなんです！

キシヤ

ステージを……！ 君たちが自分たちで作ったの？ 私のために？



エスピー

もちろんだよ！ ひひ～、私たちはキシヤたんのステージが見たいから……

キシヤ

どうして、そこまでしてくれるの？

キシヤ

ファンとは、ただほどほどにほっぺを寄せるくらいの関係だと思ってたのに……

キシヤ

分からない。ほんとに分からないんだよ……



ローネ(市長)

そうですね？ なぜそうしたのかと聞かれると、私たちはただ……うん……



エスピー

やりたいから！ だからやってるんだよ。



ガヴィア

うん！ 公演……す、好き……うれしい……！



ローネ(市長)

そうです！ 好きなことに、特別な理由なんてありますか？

キシヤ

そう、だよ。ほんとは、いろんな理由なんていないんだよ。でも私はどうして何度も……

キシヤ

ひとりで疑って、心配して……  
すっ——

教主

あ、来たんだ？ 外で材料を……ん？ キシヤ！ どうしてもう来たの？ まだ完成してないのに……

キシヤ

教主!!! う、うええん……！ これを見るんだよ！

キシヤ

この子たちが私のために……！ ぐすっ、いや、だから私が公演できるように作って……

キシヤ

いや、教主も知ってたんだよね？ とにかく！ うっ、うわああん……

教主

思ったよりずっと感動してるみたいだね、キシヤ？



エスピー

キシヤさんにバレちゃったから仕方なかったんだ。

教主

そう？ まあ、仕方ないね。

教主

どう、キシヤ？ 君が言った、ほどよく狭くて薄暗いけど、照明はパッと輝く地下公演場になってる？

キシヤ

うん！ ちょっとしょぼくても、だいたい私が欲しかったものは全部あるんだよ！

キシヤ

……教主。

キシヤ

今なら分かるんだよ。教主がこの子たちに頼んでくれたんでしょ？



ローネ(市長)

そうです。教主様が先に、キシヤさんのための公演場を作ってほしいっておっしゃったんです。



ローネ(市長)

あ〜、惜しいです！あと数日あれば、もっと立派〜な公演場になったのに。



ローネ(市長)

でもまあ、このくらいなら悪くないんじゃないですか？



エスピー

大丈夫だよ。キシヤさんが上がれば、全部素敵になるから、ひひ。

キシヤ

君たち……叫ぶことしかできないと思ってたのに……感動なんだよ！



エスピー

公演場が崩れてから、ガヴィアもずっと申し訳なさそうにしてたんだ。



エスピー

だから、自分の住みかを貸してくれたんだって。



ガヴィア

うん。う……うん。ごめん……



ガヴィア

恩返し……したかった……

キシヤ

ぐすっ、うっ……よし。みんなの努力が、とっても健気なんだよ。

キシヤ

ふう……こんなふうにはステージまであるのに、公演しなかったら変だよな。

キシヤ

みんな、私の公演が見たかったんでしょ。そうでしょ？



ガヴィア

うん。う……うん!!



エスピー

私、すごくドキドキしてる。キシヤさんのステージ、何日ぶりだろう？



ローネ(市長)

私たちだけのための単独公演だなんて、公演場を作った甲斐がありますね？

キシヤ

よし、気分がいい！今日はほっぺショットも全部タダなんだよ!!!  
うわあああ!!!!!!





エスピー

お、おああ!!! キシャたん!!!



ローネ(市長)

う! あ! う! あ!

キシャ

タンタラタンタン〜?!



ガヴィア

さ、さあ……! 行くぞ!!!

キシャ

じゃあ、挨拶するね! こんにちは! チェリーレッド色を担当しているキシャっていうんだよ!

キシャ

いち、に! って言ったら、キシャたんって呼んでくれるんだよ!

キシャ

いち、に!



ガヴィア

キ、キ……キシャたん!!!!!!  
わあああ!!!!!!

キシャ

そう、これでいいんだよ。

キシャ

公演場が大きくても小さくても、観客が多くても少なくても関係ない。

キシヤ

柵なんてなくてもいいんだね。

キシヤ

これからは私も、もっと……もっと近づきたい。

—次のお話—

EPISODE  
7

## もう一步、近くへ

そうして、ファンたちだけのためのキシヤの単独公演が終わった後――



ピラ

はあ……久しぶりに居場所つかめた思たのに、  
公演場が崩れるって何やねん!!



ピラ

他の仕事なんかしたないねん。



ピラ

座ってるだけで入場券の手数料ちょろまかせて、  
めっちゃ楽しかったのに……



ピラ

う、うわ!! 誰や!!

キシヤ

ピラ！私の専属マネージャーとして契約して！



ピラ

いきなり入ってきて本題から入るやつが  
どこにおんねん?!

キシヤ

いつ長々と説明しろっていうの？  
契約して！



ピラ

何を思いついたんや？ 事務所みたいなんは嫌や言うてたやろ。

キシヤ

あいつらはアンダードルにあれこれ口出ししすぎなんだよ。

キシヤ

でもピラなら楽そう。正直、ピラもそういうの面倒でしょ？



ピラ

そ、それは確かにそうやけど……

キシヤ

ピラ、自分の格好を見てみなよ。君みたいな三流チンピラっぽいマネージャーなんていないんだよ！



ピラ

なんやそれ?! 今の褒めてんのか?!

キシヤ

もちろん！ マネージャーまでスター性あふれる事務所なら、みんな注目するしかないから！

キシヤ

私はエーリアス最強最高のアンダードルになるんだから！ピラが必要なんだよ！

キシヤ

数日後には公演場の工事も終わるって知ってるでしょ？

キシヤ

これから稼ぐ公演の入場料も、ピラが全部持って行っていいよ。



ピラ

え、え？ ホンマなんか？

キシヤ

ポラロイドの収益も半分あげる。どう、契約しない？



ピラ

まあ、うまそうな話ではあるけど～、キシヤは  
そもそも収益がたいしてなかったんやで～



ピラ

小銭抜いたくらいやと、金の山には座れへんやろ！

キシヤ

そ、それはそうだけど……これからは違うってば?!

キシヤ

これから公演ももっと一生懸命準備して、  
みんなを私にどっぷりハマらせれば……



ピラ

キシヤのやつ、なんや考え変わったみたいやな。  
なんか気になるわ。

キシヤ

公演以外でも、ファンたちとよく会って  
話したいんだよ！



ピラ

まあ——分かったで。

キシヤ

ん？ 本当なんだよ？ やっぱ、ピラも私が好きなんだね！  
ピラやっほ～



ピラ

こら、勘違いすんなや!!  
これまでの情があるからや。



ピラ

本来、アンダーグラウンド界限っちゅうんは義理で  
回るもんなんや！

キシヤ

分かったこれ～、分かったこれ～



ピラ

ちょ、離れえや～!!!

キシヤ

え～、なんで？ マネージャーだけにあげる無料ポラロイド  
タイムなんだよ!!!



ピラ

そんなんいらんわ～!!!  
金ぎょうさん稼いでこいや!!!

そうして一週間後。公演場が完成してから初めてのアンダードル公演当日。



ピラ

ホンマにこれで十分なんか？



ピラ

せっかくマネジメント契約までしたのに、最初のスケジュールがファンミーティングとはな。

キシヤ

うん！これが一番やりたかったんだよ！



ピラ

まあファンは喜ぶやろうけど、キシヤがこんなにファンサービス精神旺盛やとは思わへんかったわ。



ピラ

あ、入りや～



ローネ(市長)

うわあ～、本当にここに入っていいんですか？



エスピー

控え室でファンミーティングなんて、最高じゃない？





ガヴィア

……う、うれ……し、緊張……



ローネ(市長)

一応念のため聞くんですけど、場所の  
レンタル代がないからってわけじゃないですよ？



ピラ

まあ、否定はできへんけど……文句あるなら出ていきや〜!!!



ピラ

始めたばかりの新生マネジメントに金が  
どこにあるっちゃうねん？ ああん?!



ローネ(市長)

ふ、ふええん？ キシャたん！ 本当にこんな不良みたいな  
人にマネージャーを任せなきゃダメなんですか？

キシャ

ピラは人相は悪いけど、私を宣伝するって  
昼も夜もチラシを配って歩いてたんだよ～



ピラ

ちえっ。せやけど、申し込んだんはこいつらだけやったんや。



エスピー

倍率が低くて、私はむしろうれしいよ。へへ……



ガヴィア

私も……う、うれしい……！



ピラ

ええから、みんなヘジャングクでも食べながら好きなだけしゃべるときや。



ピラ

他のやつらが来たら、容赦なく出ていってもらうで！



ローネ(市長)

まさか、許可も取ってないんですか？



エスピー

そ、それで大丈夫なの？ 公演場側がキシヤたんを追い出したら……

キシヤ

別にいいでしょ！ そしたら君たちが作ってくれた公演場に行って、私たちだけで遊べばいいんだよ。

キシヤ

それか〜、普通に裏路地で公演してもいいし。

キシヤ

私は君たちがいればいから！



エスピー

キ、キシヤたん〜！



ガヴィア

か、感……動……



ローネ(市長)

私だけを見てくれるアンダードールなんて、ありえない……



ローネ(市長)

ファンミーティング費用が私の一か月の給料より高いことを除けば、完璧すぎると思います！



ローネ(市長)

なので～、次はヘジャングクじゃなくて、とんかつ定食を用意していただけませんか？



ピラ

ふざけとんのか?! ここは食堂ちゃうぞ!!!!



ローネ(市長)

う、うえええっ!!!

キシヤ

やっぱり、私のマネージャーにはピラがぴったりなんだよ!!!

しばらくして、ファンミーティングが終わった後。

教主

キシヤ、来たよ。

キシヤ

ん？教主！今出るんだよ！

教主

ファンミーティングはうまく終わった？少し見て回ったけど、公演場は前とほとんど同じように再現されてたね。

キシヤ

だからいいんだよ。安心感があるっていうか？

教主

よかった。キシヤがまた安心して公演できるようになって。

キシヤ

教主、そんなに私のこと心配してたの？

教主

ん？ まあ……そうだね？

教主

私から見ると、キシヤは公演もファンも全部大切にしているように見えたから。

教主

文句を言いながらも、私に何度もファンの話をしてたし……気にしてたんでしょ？

教主

今回のことでファンたちの本心を知れたのもよかったし……  
それと同じくらい、君もファンを大切に思ってるって気づけてよかった。

キシヤ

うーん……

キシヤ

私のファンたちは、どうしてみんなこんなに優しいんだろう？

キシヤ

このアンダードルにして、このファンありなんだよ。

キシヤ

すごく健気なんだよ。でも、もう私の心配はしないで。

キシヤ

私は自分のやりたいことを全部やる、賢い幽霊だから。

キシヤ

それに、今は何が一番大事なのかも分かった。

キシヤ

自分のファンをしょんぼりさせるアンダードールなんて最悪なんだよ！

キシヤ

私のファンたちが私を思い浮かべた時、何の心配もなく笑顔になってほしいんだ。

キシヤ

私とファンは、そういう関係なんだよ。お互いに応援し合う、最高の親友！

キシヤ

今この瞬間の積み重ねで、未来が描かれるんだよ。

キシヤ

だから私は今だけ考える。後のことは後で！

教主

うん、そうだね。キシヤらしい考えで、いいと思う。

キシヤ

今回、教主がどれだけたくさんの子たちを  
気にかけているのかわかったんだよ。

キシヤ

一度会っただけの私のことも、ずっと気にかけてくれたでしょ？

キシヤ

私以外にも、もっといるでしょ？ 甘えてきたり、  
問題を起こしたりする子どもみたいなやつら。

キシヤ

そいつらに振り回されて疲れたら、私のところに来るんだよ。

キシヤ

私という時は、思いきり子どもっぽくなくてもいいんだよ。

キシヤ

だから私には、責任感なんて感じなくていい。  
ただ思いきり叫んで、遊んでいけばいいんだよ。

キシヤ

分かった？ 私たちの教主は、いい子のほうでしょ。ね？

キシヤ

私も教主のファンになるんだよ。一番近くで  
応援してあげるんだよ。

教主

うん、分かった。

キシヤ

じゃあ……挨拶して締めるね？

キシヤ

今まで……キラキラ、君だけのアンダードル！

キシヤ

キシヤたんだったんだよ！またね！

